

# 隠れキリシタンについての一考察

## —上州を中心に—

日本で「隠れキリシタン」というと、主に長崎周辺に潜伏したキリスト教徒を想像する。近年では、天草地方を中心に、現代まで「隠れキリシタン」としての信仰を保ってきた人々がいることが注目を集めている。しかし、本研究で検討する「隠れキリシタン」とは、筆者の地元である群馬県における「隠れキリシタン」である。上州にも多くの「隠れキリシタン」が存在していたといわれているのである。

本研究では、それらの「隠れキリシタン」の持つ歴史や成り立ちについて考察をおこなった後、長崎をはじめとした代表的な事例と群馬の事例との違いについて比較した。本研究では、最初に「隠れキリシタン」に共通する事項として、16世紀～18世紀の日本におけるキリスト教の歴史と、禁教の歴史について論じた。次に、群馬県における「隠れキリシタン」についての痕跡が最も多かった沼田市・川場村を対象にしたフィールド調査と、文献を用いた研究の二つの研究手法によりアプローチを試みた。

結果として、本研究におけるテーマである「隠れキリシタン」の持つ信仰形態や、土地的条件の違いにより、天草等に現存する「隠れキリシタン」との違いが生まれたと考えられる。